

令和 2 年 5 月 21 日現在

機関番号：15201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K16869

研究課題名(和文) 墳墓構造の変遷からみた朝鮮半島青銅器時代社会の複雑化に対する研究

研究課題名(英文) A study on the complexity of the Bronze Age society in the Korean Peninsula from the transition of the tomb structure

研究代表者

平郡 達哉 (HIRAGORI, TATSUYA)

島根大学・学術研究院人文社会科学系・准教授

研究者番号：60709145

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：朝鮮半島青銅器時代の墳墓は前期前半に築造が開始され、土壙墓・石棺墓・周溝墓が群集せず独立して分布する。前期後半になると、支石墓築造の開始と共に計画的な墓地の形成を前提にした列状墓地が見られる。後期前半には集団性を見せる群集型墓地が形成され、後期後半には巨大な墓域施設や埋葬主体部の地下化といった個人性が強調される墓が単独的に築造された。これは、集団墓形成 有力集団 有力個人の出現していく過程であり、階層化の進展と関連づけることができる。また、琵琶形銅剣、磨製石剣など武器形副葬品は前期後半の墳墓築造の開始とともに登場し、その性格から社会内における問題解決者としてのリーダーの存在を想定できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

墳墓資料からみると、朝鮮半島の青銅器時代においては限定された人間が墓を築造でき、青銅器副葬品の希少性、武器形副葬品の登場を勘案すれば、社会内における不平等とそれを調整するためのリーダーが存在した。これらの点から後期前半までは平等社会から首長制に移行していく過渡的不平等社会にあり、後期後半には墳墓の構造や墓区構成での突出した個人性、極端化した可視・非可視要素の存在からみてさらに階層化が進み、首長制段階に進入したと考えた。上記のように、墳墓資料からのアプローチによって、社会の複雑化について明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Construction of the tomb begins in the former half of early period in the Bronze Age of the Korean Peninsula. The pit burial, stone-cist burial are distributed independently. Construction of a dolmen tomb will begin in the latter half of early period. Along with this, there is a lined graveyard formed by a planned graveyard. A crowd-type cemetery is formed in the former half of late period. It has a collective character. In the latter half of late period, there is a tomb with a huge grave area facility and underground burial. This is a tomb that emphasizes individuality and was built independently. This process means the formation of group graves influential groups influential individuals. It can be related to the progress of stratification. Weapon-shaped burial items (lute-shaped bronze dagger, polished stone dagger) will appear at the beginning of the construction of the burial mound. It makes us assume the existence of a leader as a problem solver in society.

研究分野：朝鮮半島青銅器時代文化

キーワード：朝鮮半島 青銅器時代 墳墓構造 墓地構造 武器形副葬品 社会 複雑化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

朝鮮半島の青銅器時代墓制に関する研究において、1980年代後半以降の持続的な発掘調査件数の増加は考古資料の爆発的増加も同時にもたらした。朝鮮半島青銅器時代墓制を代表する支石墓資料の増加は勿論、その周囲から発見される石棺墓・甕棺墓・積石木棺墓・周溝墓・区画墓といった多様な形態を持った墳墓の存在が明らかになった。このように墓制資料の増加とともに、墳墓から出土する多種多様な副葬遺物に関する情報と共に墳墓の構造が非常に多様性を持つことが知られた。しかし、どのような構造の支石墓がまずあらわれ、それが時間の流れによっていかに変化していったのかという墳墓の型式変遷が明らかにされておらず、朝鮮半島青銅器時代墓制研究における最大の課題となっている。上記の問題を解決するためには今一度考古学研究の基本、つまり徹底した墳墓資料の集成と明確な基準に基づいた型式分類と編年を通じた研究を進めるしかないと考えた。

2. 研究の目的

本研究では、墳墓・墓地構造、副葬遺物といった墓制と関連した考古資料に対する分析を通して、朝鮮半島青銅器時代社会の複雑化過程のモデルを構築・説明することを目的とする。そのための具体的作業として 朝鮮半島青銅器時代の墓制資料の徹底した集成作業、墳墓構造の時間的・空間的特徴に対する型式学的検討、琵琶形銅剣・銅矛、磨製石剣・石鏃、赤色磨研土器、碧玉製管玉といった青銅器時代になって登場する副葬遺物及び副葬行為の性格とその時空的変遷について検討を行う。これらの作業を通して朝鮮半島青銅器時代社会が複雑化していく過程のモデルを提示し、その歴史的評価を行う。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するため、まず墳墓構造の時空的展開・特徴の把握に努めた。次のような研究方法を用いて、各目標を段階的に進行していった。

1. 研究の基礎となる墓制資料の徹底した集成を実施する。このような集成作業を行うために発掘調査報告書が体系的に所蔵されている韓国の関連機関での発掘報告書の網羅的検索を通して、墳墓資料を収集する。

2. 既存の墳墓変遷に関する研究を整理し問題点を抽出する。特に、型式分類について明確な分類基準を提示しつつ、編年作業の根幹部分について再検討する。副葬遺物を加味して墳墓の編年案を提示し、墳墓構造の変遷とその性格を明らかにする。

3. 数多くの青銅器時代墳墓の中でも数的に限定的される青銅器副葬墓について、その構造と出土遺物、墓地全体のなかにおける青銅器副葬墓の位置づけを再検討し、威信財としての青銅器の機能および被葬者の性格に対する言及を行う。

4. 青銅器時代墓制の副葬品として最も多く見られる赤色磨研土器、磨製石剣・石鏃の性格とその時空的変遷について検討する。これらの遺物に対する編年作業を行い、特に時間の流れとともに進行すると考えられる磨製石剣の儀器化が果たして朝鮮半島全域で均一的に起こったのかについて再検討してみる。遺物自体に対する検討のみならず、出土地点と状態を綿密に整理することでその性格がいかに変化していったかを明らかにする。

これらの検討を通して、朝鮮半島青銅器時代社会が地域ごとにいかなる複雑化過程を経ていったのかを把握する。

4. 研究成果

本研究では、墳墓・墓地構造、副葬遺物といった墓制と関連した考古資料に対する分析を通して、朝鮮半島青銅器時代社会の複雑化過程のモデルを構築・説明することを目的とした。具体的には墳墓資料の内、遺構研究に焦点を当てて論を進め、複数基の墳墓が有機的な位置関係を示しながら分布する「墓区」を、個別墳墓の配列状態・位置関係に基づいて独立型、群集 a 型、群集 b 型、群集 c 型に類型化した。

青銅器時代前期後半に墳墓の築造が本格的に開始され、土壙墓・石棺墓・周溝墓などは独立型で造営された。また、支石墓築造とともに計画的かつ継続的に墓区を構築することを前提とした群集 a 型が見られる。後期前半になると、独立型が少なくなり、代わりに群集型が主流をなし、群集 a・b・c 型すべての形態が見られる。また、大規模な群集をなす墓区が見られる。後期後半は特定個人の墳墓の墓域が極端に巨大化したり、埋葬主体部の地下化は墳墓の可視的要素、非可視的要素がそれぞれ分化していった。これは、集団墓形成 有力集団 有力個人の出現していく過程を示しており、階層化の進展と関連づけることができる。

また、青銅器時代の副葬遺物および副葬行為については、琵琶形銅剣・銅矛、磨製石剣・石鏃といった「武器形副葬品」の登場が特徴となる。武器形副葬品の登場は、前期後半に墳墓築造の開始とともに出現した。その性格については青銅器時代前期後半に社会内における問題解決者としてのリーダーの存在を想定できる。

墳墓資料からみると、朝鮮半島青銅器時代においては限定された人間が墓を築造でき、青銅器副葬の希少性、武器形副葬品の登場を勘案すれば、社会内における不平等は確実に存在する。朝鮮半島青銅器時代は平等社会から首長制に移行していく過渡的不平等社会のような性格を帯びるものと考えられる。後期後半には墳墓の構造や墓区構成での突出した個人性、極端化した可視・非可視要素の存在からみて以前の時期に比べて階層化が進んでおり、首長制段階に進入したと考えられる。上記のように、墳墓資料からのアプローチによって、社会の複雑化について明らかにした。

今後の展望としては、今回の墓制からみた社会複合化と既存の集落研究の成果と結合させることで、朝鮮半島青銅器時代文化研究の進展に多角的な視野を加えることができると考える。また、基礎資料を集成・整理したものを土台にした本研究は、将来、中国東北地域・日本列島の同時期の墓制比較において重要な基礎研究になるものと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 平郡達哉	4. 巻 7
2. 論文標題 出雲市原山遺跡出土の磨製石剣について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 出雲弥生の森博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平郡達哉	4. 巻
2. 論文標題 韓半島南部地域青銅器時代の埋葬姿勢に関する覚書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 花園大学考古学論叢	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斐真晟(訳：平郡達哉)	4. 巻 第14号
2. 論文標題 「清川江以南地域における無文土器時代墳墓の出現について」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『社会文化論集』	6. 最初と最後の頁 75-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平郡達哉	4. 巻 8
2. 論文標題 「磨製石剣からみた韓半島青銅器時代社会」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『青鶴』	6. 最初と最後の頁 P.202～226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平郡達哉	4. 巻 34集
2. 論文標題 「日本列島出土磨製石剣再考」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『島根考古学会誌』	6. 最初と最後の頁 P.41-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李盛周(訳：平郡達哉)	4. 巻 13号
2. 論文標題 「韓半島青銅器時代の性格に対する諸論議」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『社会文化論集』	6. 最初と最後の頁 P.65～84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平郡達哉	4. 巻 別冊2
2. 論文標題 「朝鮮半島出土磨製石剣研究の動向と課題」	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 『みずほ』	6. 最初と最後の頁 237-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黄昌漢(訳：平郡達哉)	4. 巻 11号
2. 論文標題 「朝鮮半島青銅器時代の装飾石剣に対する検討」	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 『社会文化論集』	6. 最初と最後の頁 71-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴栄九(訳：平郡達哉)	4. 巻 12号
2. 論文標題 「朝鮮半島東海岸地域青銅器時代墳墓の変遷」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『社会文化論集』	6. 最初と最後の頁 51-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 平郡達哉
2. 発表標題 「墳墓と儀礼」
3. 学会等名 『海外研究者がみた韓半島の青銅器時代』慶北大学校COREプログラム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平郡達哉
2. 発表標題 「朝鮮半島出土磨製石剣をめぐる近年の研究動向」
3. 学会等名 考古学研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 平郡達哉(李栄文・尹昊弼編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 書景文化社	5. 総ページ数 196
3. 書名 「第3章 墳墓出土遺物と地域別特徴」 『青銅器時代の考古学4 墳墓と儀礼』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----